

家畜衛生だより

No. 221 令和8年5月発行



新潟県

上越家畜保健衛生所

〒943-8551

上越市本城町 5-6

TEL:025-526-9441 FAX:522-1724

E-mail:ngt066060@pref.niigata.lg.jp

令和8年度 当所の重点実施事項

○ 家畜伝染病の発生予防とまん延防止体制の強化

鳥インフルエンザ等の家畜伝染病の発生を予防するため、家畜の飼養者に対する飼養衛生管理基準の遵守徹底を図ります。また、発生に備え、防疫計画の点検や地域振興局との連携・協力、防疫訓練の実施により危機管理体制を強化します。

○ 生産性向上及びコスト低減による所得確保

肉用牛は繁殖及び枝肉成績向上を支援し、市場競争力強化と消費拡大を図ります。酪農家へは乳質改善支援を行うことで、高品質な生乳生産体制を強化します。

さらに、公共牧場における牛伝染性リンパ腫対策を推進するとともに、牧場の利用促進を通じた生産コストの低減を図ります。

○ 担い手への技術指導等による支援強化

担い手育成に向け、技術指導や衛生対策の改善、生産性向上を総合的に支援するとともに、地域畜産クラスターの活動等も積極的に支援します。

令和7年度 鳥インフルエンザ発生状況

・令和7年度シーズンは、家きんでは10月22日に北海道で1例目が確認され、最新発生（4月22日）時点で16道県24事例、約576万羽が防疫措置の対象となりました。

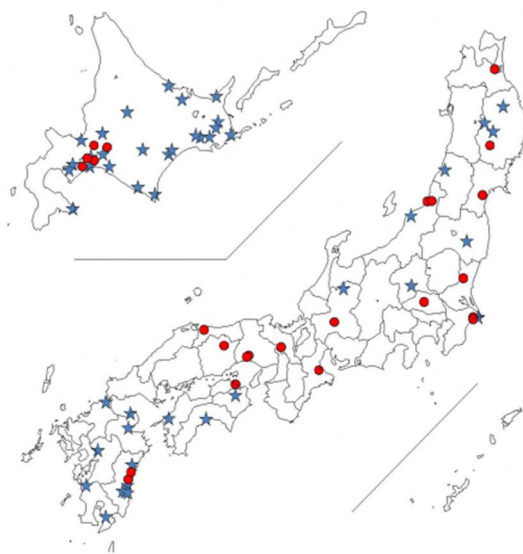
・新潟県においても11月4日と9日に胎内市の採卵養鶏場で連続して発生し、合計約91万羽を対象とした防疫措置が行われました。

・前シーズンの51件、約932万羽より件数と羽数は減少したものの、大規模農場や既発農場での発生が多い傾向でした。

・国は、①大規模農場での「分割管理導入の検討」と、②発生・まん延リスクの高い地域を大臣指定地域（県内2地域を含む全44地域）に指定し、地域内の農場に対して消毒薬の備蓄や野鳥誘引防止対策等の実施を義務付けています。

令和7年シーズンの発生状況

● 家きん
★ 野鳥・環境試料



(農林水産省HPより)

韓国で9か月ぶりに口蹄疫が発生！！

- ・1月30日、韓国の仁川広域市の牛飼養農場で口蹄疫（O型）が発生し、2月には京畿道高陽市の牛飼養農場でも2件の発生が確認されました。空港や港での検疫体制は強化されているものの、国内への侵入リスクは極めて高い状況が続いております。
- ・偶蹄家畜（牛・豚・緬山羊）の飼養者は、飼養衛生管理基準を遵守し、発生予防の徹底をお願いします。

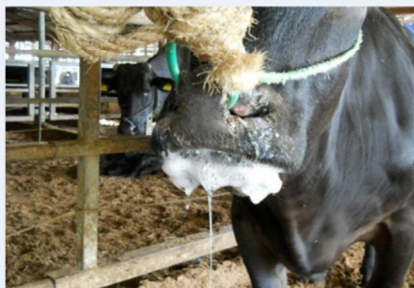
疑わしい症状は直ちに通報を！

口蹄疫は牛や豚などで発熱や食欲不振に始まり、後に**泡状のよだれ**を流したり、**口、ひづめ、乳房に水疱（水ぶくれ）**ができるのが特徴です。

＜A型口蹄疫ウイルスの感染実験の結果＞

～牛の症状～

写真：宮崎県提供



上顎口唇潰瘍

写真：動物衛生研究部門提供



水疱が破れている

毎日必ず健康観察し、これらの症状を見つけ次第、直ちに**獣医師**や最寄りの**家畜保健衛生所**に連絡しましょう。

牛では、**1頭のみに着目せず**、泡状のよだれを多く流している個体が多い、上記の症状が急速に広がるなど、**群としての異状の有無を確認することが重要**です。

（農林水産省HPより）

笹ヶ峰放牧場 ～衛生検査体制～

笹ヶ峰放牧場では、5月19日の開牧に向けた準備を進めています。衛生検査については、昨年度と同じ内容です。

引き続き牛伝染性リンパ腫対策を実施しますのでご理解のほどお願いします。

放牧前	ヨーネ病	検査未実施の牛	700円
	牛ウイルス性下痢	検査未実施の牛	2,000円
	牛伝染性リンパ腫	全頭：抗体検査 陰性：遺伝子検査	無料
放牧中	牛伝染性リンパ腫	陰性：抗体検査	無料
	ピロプラズマ症	全頭：放牧中2回	470円/回

《4月から新体制となりました》

○本年度もよろしくお願ひいたします。

※転入者

所長	次長 兼企画指導課長	企画指導課		防疫課	
		獣医師	主事	防疫課長	主任
岡本 英司※	會田 恒彦※	牧井 賢充	前田 紀貢子	木村 仁徳	市川 雄紀※
転出者：平山 栄一、曾我 万里子（中央家保へ）、竹内 智胤（中越家保へ）					